

れなかった。

以上のとおりで、工事は予定通り実施した。

(清喜裕二)

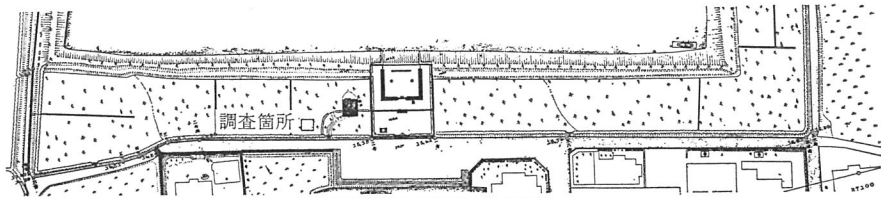
百舌鳥耳原北陵見張所改築箇所の立会調査

大阪府堺市には百舌鳥古墳群として、巨大な古墳が展開している。その北端に位置する当陵で、見張所改築工事を実施することとなり、平成九年一月二十七日～三十日に本部職員による立会調査を行い、併せて平成八年十二月十九日～平成九年三月二十八日の工期中には、古市陵墓監区事務所職員が立ち会い、遺構遺物が損なわれることのないよう万全の配慮をした。施工の場所は当陵拝所西側部分にあたり(第28図)、内容は在来見張所改築とそれに伴う配管工事である。

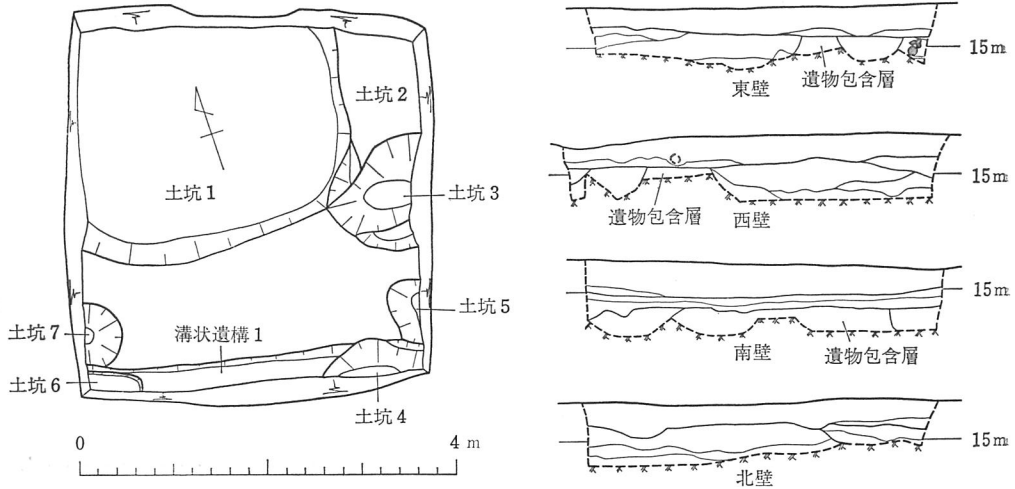
以下、今回の立会調査によって得られた所見を報告する。

一 見張所改築箇所(第28図)

見張所基礎部分を、三・八×三・八メートルの範囲で最終的には〇・八メートル掘削した。在来見張所の基礎は浅く、現地表から〇・二～〇・三メートルで遺構面を検出し、最終的には七基の土坑と一本の溝状遺構を確認した。これらの遺構は当初検出した遺構面から掘り込まれたものであるが、この遺構面自体は暗黄褐色粘質土で、地山に似た特徴を有する遺物包含層であった。南壁を観察する限り、地山面からの掘り込



調査箇所位置図(1/2000)



第28図 トレンチ平面および断面(1/80)

みも確認でき、結果的に遺構は二時期に分けられる。堆積状況から、地山に対する掘り込みは、地山に類する遺物包含層と共に、一気に埋められていることがわかる。土の特徴から、他の場所で掘削された地山が人為的に盛られたものと考えられる。他の平面で確認した遺構は、細かい切り合いはあるものの、全てこの盛土後に掘り込まれたものである。

二 配管箇所

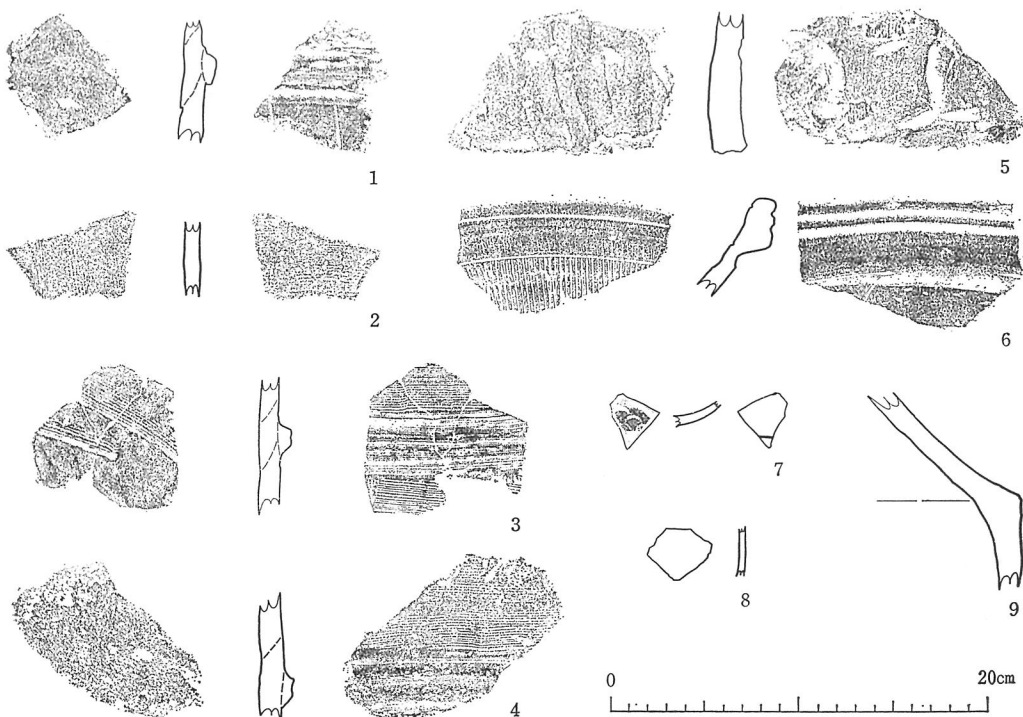
配管に伴う小規模掘削であるため、遺構を面的に確認することは困難だったが、土層断面や見張所基礎部分の調査結果から判断して、同様の遺構が分布することが想定される。配管箇所遺物は出土しなかった。

三 出土遺物(第29図)

今回の調査では、埴輪を中心に中近世の遺物が出土した。原位置を保つものはなく、出土状況から本陵築造時の遺構はないと判断される。

1は、地山上に形成された包含層内、2・3・4は土坑4出土で外面にはいずれもヨコハケ調整が施されている。3・4は確実に二次調整が確認できる。5は底部の破片である。6は土坑1の上層から出土した界摺鉢で、形態から十八世紀後半頃のものと思われる⁽¹⁾。7・8は土坑1の床面直上から出土した。7は磁器碗、8は須恵器かと思われる。土坑1は、覆土に層位ごとの際だった差異がなく、壁の崩れがほとんどないことから、ごく短期間のうちに埋没したものと考えられる。9は土坑4から出土した、信楽の水指か甕の肩部と考えられる。

四 まとめ



第29図 百舌鳥耳原北陵出土品(1/4)

以上述べてきた所見から、今回検出した遺構は、過去に堺市教育委員会により行われた調査で検出された不明土坑⁽²⁾に符合するものと考えられる。各々の調査地が離れているため、このような遺構が当陵の周辺にかなり広範に存在していた可能性もあろう。また、堺市の同じ調査で二重堀も確認されている。今回の調査地は、現在の堀から僅か一五メートルの距離であり、前方部の正面という位置からも二重堀の存在が予想されたが、今回の調査地ではその存否は確認できなかった。

これらの調査結果を踏まえ、工事は予定通り施工した。

註

- (1) 白神典之「堺摺鉢と明石摺鉢」『江戸の陶磁器』(江戸遺跡研究会 第三回大会発表要旨) 一九九〇年
- (2) 堺市教育委員会『向井神社跡遺跡発掘調査概要』一九八〇年

般舟院陵見張所改築工事箇所の立会調査

第一〇三代後土御門天皇後宮贈皇太后朝子般舟院陵は、京都市上京区般舟院町にあり、三分骨所一〇墓が同一兆域内にある。

今回当陵の見張所が経年のため老朽化し、改築工事が計画された。当該地は周知の埋蔵文化財包蔵地

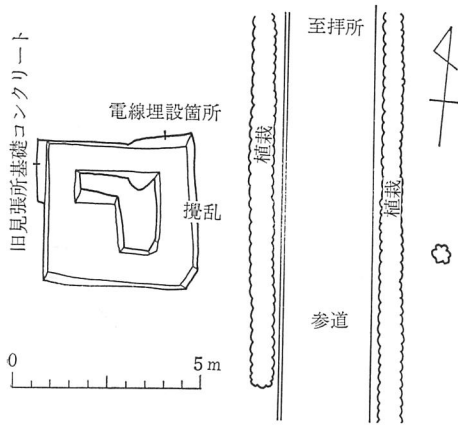
(清喜裕二)

にあたるため、基礎部及び付帯工事に伴う掘削に先立って平成八年八月二十八日から三日間立会調査を実施した。

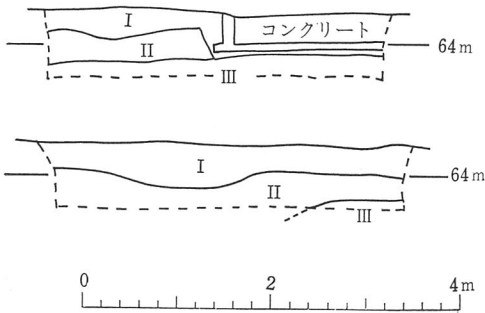
掘削区域は、旧見張所を撤去した跡地である(第30図)。掘削箇所は北面半分ほどには、旧見張所の基礎コンクリートがそのまま残っていた。さらに、東側は昭和五十八年度に実施された電灯電話設備設置の際に設けた地下ケーブルによって攪乱を受けている(本誌第三六号報告参照 昭和六十年二月刊行)。

このような状況の中で、掘削箇所の土層断面図は第31図に示したとおりである。土層は大きく三層に分けることができた。

I層 表土 旧見張所の基礎、及びその際の埋戻し土。



第30図 般舟院陵調査箇所的位置 (1/200)



第31図 般舟院陵調査箇所の断面(1/80)